

伝統をつなぐ「100本の帯」でサステナブルプロジェクトを始動

京都・西陣 川島織物セルコン 販売トライアルを開始



株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：木村弘一）は、着物に着用する「帯」の二次流通品（リユース品）の販売を目指すサステナブルプロジェクトをスタートします。川島織物セルコンは伝統技術と先端技術を併せ持ち日本の織物文化を牽引してきた織物メーカーです。帯のデザイン・原料・染織等の知見を有する当社だからこそ出来る、従来の和装品の中古販売とは一線を画した循環型モデルの構築を目指します。初回は希少な伝統技術で作られた品を含む約 100 本の販売を予定しています。

着物の帯は、貴重な素材を用い丁寧な手仕事で作られたものも多く、中にはその技術を継承する後継者の確保や器具や原料調達に難しさを感じているものもあります。コンピューターを導入したり、原料調達先を増やしたりするなどの工夫を続けることで、品質や精度は格段に向上した一方で、人の手による良さが薄れるなどのこともあります。「例えば数十年前まではデザイン画をガラスペンで描いていたため、線に味がある・勢いがある等と言われていましたが、現在のデザインは美しい線ではありますが、物足りないと感じる方もあります」（帯企画制作担当 佐藤修）。また、以前は親から子へと受け継がれる着物文化の中で世代を超えて着用され続ける機会があったものも、昨今は和装の機会も減り真新しい状態のまま使われなくなり役目を終える帯も少なくありません。

このたび当社は、このような長期間にわたり出番が無くタンスに

眠っている価値の高い帯を、必要としているユーザーへお届けし新たに活かして頂くことで、帯 1 本当たりの着用回数を増やし知られざる貴重な技術を世に広めていきたいとの思いで、本プロジェクトをスタートしました。

今回は販売トライアルとして、織りあがってから一定期間保有していた帯など約 100 本を、2021 年 10 月より期間限定でネット販売します。また今後は、皆さまの貴重な帯を回収し、点検・修理、責任を持って再販するという事も視野に入れ、着物にまつわる伝統技術の伝承にも貢献したい考えです。

川島織物セルコンは、創業期よりこだわりのモノづくりを続け、分業が主流の西陣において、ほとんどの工程を社内で行う数少ない織物メーカーです。デザイン、素材、織り方など納得がいくまで時間をかけて企画・設計し、伝統工芸士らを含む職人によって丁寧に織った帯は、締めやすいとお声を多く頂いています。このように心を込めて製造した帯を、一人でも多くの方に一度でも多くお締めいただけるような仕組みを作り、伝統技術の継承と着物文化の存続、さらにはそこから生まれる新しい価値の創造に寄与していきます。

販売概要

川島織物リユースプロジェクトショップ




販売期間：2021 年 10 月 15 日（金）～12 月 24 日（金）

販売サイト：<https://kawashimatx.official.ec/>

Instagram：<https://www.instagram.com/kawashimareuse/>

川島織物
reuse

参考 販売商品一例

		
<p>袋帯 優霞聚錦文 (ゆうかしゅうきんもん)</p> <p>能装束に見られる蜀江文様、唐花菱文様、菊花亀甲などの伝統的な割付文様を、よいことの前触れを表す吉祥文様として好まれる瑞雲霞の形にデザインし、格調高く織り上げた袋帯。</p> <p>結婚披露宴の参列や、入学式・卒業式などの付添いなど、フォーマルからセミフォーマルのシーンでの着用が好適品。</p>	<p>袋帯 立波扇映 (たつなみせんえい)</p> <p>寄せては返す躍動感のある波濤文様を表した意匠。のびやかにデザインした扇面に柄箔を用いて変化を持たせ、波濤には太い金糸を用いボリュームと光沢を強調させて織り上げた袋帯。</p> <p>色留袖や訪問着にあわせやすく、結婚披露宴などの式典への出席から、ご友人とのパーティなど、フォーマルからセミフォーマルのシーンで幅広く着用できる帯。</p>	<p>なごや帯 桃山遊趣 (ももやまゆうしゆ)</p> <p>桃山時代に制作された西洋双六盤をモチーフとした意匠。銀と朱漆で描かれた南蛮的な尖塔形や、螺鈿で装飾された七宝文を綴で織り表し、盤上の駒に色鮮やかな刺繍を施した、異国情緒あふれるなごや帯。</p> <p>フォーマルからセミフォーマルのシーンでの着用がおすすめ。</p>
<p>¥50,000 (税込)</p>	<p>¥200,000 (税込)</p>	<p>¥250,000 (税込)</p>